

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話) 0943-37-1120		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 13 日	評価結果確定日	令和 6 年 3 月 28 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人おひとりの個性を尊重した支援を目指す。「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者様が毎日の生活に「生きる楽しみ」や「共に生活することによって生活に充実感を感じて頂き、このホームを「自分自身の居場所」としていけるようサポートしていきたいと思う。また、職員自ら創意工夫し、安心・衛生面に配慮しながら入居者様の日常生活及び人生経験を重んじ、笑いの絶えない「我が家」のような暮らしをサポートしていきたいと思う。入居者様の生活スタイルに合わせ、地域との交流を行い、自立支援のための介護を提供していく。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 5 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然に囲まれた梅林の先の閑静な場所に、事業所は位置している。敷地内に特別養護老人ホームがあり、研修や医療関係で協力体制ができている。事業所周辺は、桜やサザンカ等の四季折々の花の木が植えられており、桜の時期は外で花見をしながら食事をしている。鳥の鳴き声も聞こえ、天候が良い時期は外気浴や体操をして、自然を楽しむことができる。利用者が楽しみながら、認知症進行が予防できるようなレクリエーションや活動をしている。利用者の笑顔がみられ、「生きる喜び」と「やすらぎ」を共有できるよう努めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」を基本に部門目標や月間目標を変更しながら各スタッフと共に、朝礼時唱和確認を行いながら実践している	地域密着型の視点を含めた事業所の理念があり、事務所と玄関に掲示している。朝礼で、部門目標や月間目標と共に理念を唱和している。月1回のミーティングで、職員は理念の内容を共有し、日々実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為、控えていましたが5類になり入居者様と共に事業所主催の行事を少しずつではありますが行っていく予定ではあります。	感染状況を見ながら、コロナ禍前にように、地域行事の敬老会や左義長に利用者が参加したり、事業所内の夏祭りや法人内の秋祭り、餅つき等の行事に地域住民の参加を前向きに検討している。近隣の住民とは、花や柚子、タケノコのおすそ分けをもらう等、親しい関係づくりができています。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護予防教室に積極的に参加して地域推進運営会議の際に報告している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面での報告であったが5類になり再び入居者様家族・市職員・区長が参加して行い、又助言を頂きサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者やサービスの状況等を報告している。会議のメンバーから、一人ひとり意見をもらっている。「センサーに頼らず、しっかり見守ってほしい。」と意見があり、職員にその意見を伝え、サービス向上に活かしている。会議に出席できなかった家族には、口頭で会議の内容を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進運営会議にて集まって頂き報告を行い、電話や助言を頂いている。	日頃から、行政へ連絡・相談・報告を電話やメールで行っている。必要に応じて行政窓口に出向いている。地域密着型サービス連携会議に出席し、行政や他事業所との情報交換や連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関施錠は行わず、鈴を掛けたり居室にて転倒転落がないようにセンサーを設置し移動傾向の把握している。また、研修にてスピーチロック等の拘束をしながらケアに取り組んでいる。	日中、玄関は施錠していない。チャイムと鈴を設置している。全職員が法人内の身体拘束の研修に参加している。事業所内の身体拘束廃止委員会を年3回開催し、スピーチロック等について話し合い、マニュアルを作成している。年1回、自己点検シートを使用して、アンケートをとっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での虐待防止委員会の参加や研修レポートなどを提出して理解をしていながら虐待防止への意識を高めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様や家族へ権利擁護に関する制度を分かりやすく助言できるよう資料などを準備し体制も整えられている。また、理解を深め活用するため日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての内部研修を実施している。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、研修等で職員が学ぶ機会がない。また、家族に権利擁護に関する制度について、特に説明をしていない。	権利擁護に関する制度について、研修を実施する等、職員が理解を深める機会を設けてほしい。また、利用者や家族に対して権利擁護に関する制度の説明ができる体制づくりを期待したい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時ご本人様やご家族様と一緒に、書面にて分かりやすく説明を行い納得理解をして頂いたうえで契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時御本人様や御家族様に対して相談苦情窓口・重要事項説明をホーム内に設置し面会時に家族とのコミュニケーションを取りながら要望を取り入れている。	職員は日頃から、利用者の要望や意見を聞いている。お菓子作りをする時は、利用者と一緒に食べたいものを聞いて、職員と利用者と一緒に桜餅や梅ヶ枝餅を作っている。家族へは、面会時や電話時に、日頃の状況報告と要望や意見を聞いている。「ストレスがたまらないように、歌が好きなので、歌を歌うようにしてほしい」と、家から要望があり、歌う機会を作る等、家族の要望を取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンスや職員との意見交換を行い発言や、提案があったときは、その案を取り入れて働きがいのある環境をつくっている。	管理者は、月1回の会議の時や必要時、職員の意見を聞いている。年1回法人で、人事考課の面談がある。ミーティングに出席できない職員には、事前に利用者や業務内容について意見を記載してもらっている。新人職員等には、管理者のから声かけをしている。掃除方法や利用者のケア方法等、職員の意見を取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況にて個人の日頃の努力・実績を把握し職員1人ひとりが、やりがい働きがいのある仕事と思えるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>法人代表者及び管理者が、職員の募集・採用を行っているが、介護職の経験、資質や人間性を重視している。職員一人ひとりの個性を尊重し、生き生きと活動できるように法人全体で取り組んでいる。</p>	<p>採用選考は法人で行っており、管理者も同席している。性別や年齢等を理由に、採用対象から外さないようにしている。定年はなく、希望があれば何歳でも就労可能である。資格取得希望者は、研修の案内や休みの調整をしている。職員が得意分野で力を発揮し、働きやすい職場環境づくりを目指している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育やコンプライアンス等の研修を実施している。利用者の人権を尊重し、身体拘束ゼロを目指し、利用者の安全やプライバシーに配慮した取り組みを行っている。</p>	<p>全職員が法人内のウェブ研修で人権について理解を深めている。研修資料を保管している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の資格取得、力量に応じた研修を受講できる体制を整えている。事業所内の研修会や外部で行われている研修会にも参加しスキルアップに努めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会や研修会などへ参加し、情報交換やネットワークづくりを積極的に行いサービス向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>計画作成者が先ず本人との関係性を築くため、困っていることや不安なこと、要望などの聞き取りをし、安心できるように声掛けや配慮をし、良好な関係性を図ることが出来る様に努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族や本人の立場に立って話をよく聞き、困っていることや、不安に思っていること、要望に添えるように心がけ、良好な関係を築けるよう努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の体調や生活状況、意向や要望等、積極的な会話を通じて本人と家族が今一番必要とされていることをくみ取り支援している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物の片付け、食事の片付け等、一人ひとりの現有能力を見極め、各々の能力を発揮出来る機会を提供している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族と連絡を取り体調や生活状況などを伝えたり、必要な品物を持参して頂くことで一緒に支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合いなど、来所される際事前に連絡して頂き、感染対策をした上で居室にて面会を実施している。外出は希望されれば家族の送迎で実施している。	利用者の馴染みの人や場所についての情報を、利用者や家族、知人等から得ている。コロナ禍前は知人や友人が面会に来ていたが、現在はほとんどないため、電話連絡の支援をしている。馴染みの美容室へ家族に連れて行ってもらったり、自宅近くの彼岸花が咲く場所に行ったり、家族が外出時に馴染みの場所をドライブしたりする等、馴染みの人や場所の関係が継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者の人間性を十分に把握しトラブルが生じないよう配慮している。入居者同士で困ったときは助け合ったりされている。諸活動では一緒に参加して体操やカラオケなど楽しまれている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの要請があれば、必要に応じて相談など継続している。他施設や医療機関等へ移られた場合は情報提供を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアのなかでの会話や表情等を見て本人の視点での意向の確認に努めている。重度化により本人の意向が掴めない時は、認知症発症前の生活の様子を再アセスメントをしたり、家族から意向を聞き取るように努めている。	日々の関わりの中から利用者の意向を聴き取っている。利用者からの聴き取りが難しい際には、家族に尋ねている。また、家族の協力や許可を得て、親戚や以前の知り合いを訪ねることもある。入所後、ホームに馴染めずにいた利用者が、家族からのヒントで安定した暮らしができるようになったことがあり、利用者の意向を知ることが大切になっている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力の下可能な限り情報を収集し、しっかりと生活歴やサービスの利用経緯等を把握している。本人との会話や係わりの中からも習慣や思考についても情報収集に努め職員間で情報を共有を図っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中での気付きをケース記録に記入し一人ひとりの過ごし方・心身状態の把握に努めている。また、定期カンファレンスや申し送りの際にモニタリングを兼ねて現状把握にも努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、視点が偏らないように、毎月のケアカンファレンスにて入居者の生活状況を職員間で共有し様々な意見を取り入れている。定期的にモニタリングを行い、心身に変化が現れた際は、本人・家族・関係者等と話し合い、本人の負担に考慮し新しい計画を作成している。	担当制をとっており、担当が毎月介護計画の実施状況を評価している。担当がまとめた実施状況や他職員からの聴き取り、利用者観察等から、3ヶ月ごとにケアマネジャーがモニタリング評価票を作成している。聴き取りについては医療情報は受診時、家族の意向は家族面会時に行っている。それらを基に担当者会議で、利用者参加のもとに検討し、介護計画を作成している	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践・気付き等を個別ケア記録に記入し、申し送りやカンファレンスにて職員間で情報を共有に努め、状態の変化に応じて実践や計画の見直しの参考になっている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の状況や要望に最大限応じる為、かかりつけ医との連携や重度化対応等、柔軟な対応に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地元美容室から訪問美容サービスを受けている。また、地域推進会議にて地域資源の把握に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診（内科：2/月・歯科：1/月）にて健康状態を把握して頂いている。体調変化時には、かかりつけ医に報告し指示を仰ぎ適切な医療を受けられるよう努めている。また、専門医への受診は、家族付き添いで受診して頂いています。	かかりつけ医は利用者や家族が選択している。受診は家族が行っており、受診先への情報提供や受診結果を確認している。家族だけでの受診が困難な際には、職員が受診同行や代行をしている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が、判断に迷うことや疑問に思うこと等を、同法人内の看護師や訪問看護師に相談できる体制が整えられており、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、速やかに情報提供しスムーズな情報交換が出来るよう病院職員との良好な関係作りに努めている。また、本人・家族の意向を大切にしながら、早期退院に向けた働き掛けを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には、指針を示し事業所で出来ることを十分に説明したうえで、入居者にとって一番良いと思われる方法を本人・家族・関係機関等と相談し、方針を共有している。また、医療機関へは、適宜情報提供し指示を受け支援に取り組んでいる。	利用者が重度化した際の事業所の方針があり、明文化している。終末期の事業所の対応について、入所時や必要に応じて家族等に説明している。終末期には、利用者や家族の意向を大切にしながら、医師や職員を含めて話し合い支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアル・緊急連絡網があり、同法人の看護師や宿直者・かかりつけ医の協力体制も整えられている。また、全ての職員は、実践力を身につける為定期的に、応急手当や初期対応についての研修・訓練を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回9月と3月に行っています。地域の方とは地域運営推進会議の際に連絡方法や応援体制について確認し協力できる体制を整えています。	避難訓練は年2回実施し、内1回は夜間想定で行っている。今月実施予定の避難訓練には、消防署の立ち会いが予定されている。防災については法人内で毎年研修を行っている。非常用食料や飲料水を、リスト化して管理している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの気持ち・誇り・プライバシーを損なう事がないように声掛け、対応を行っている、また私生活において他者からの干渉や侵害を受けない、自由を守る様注意するよう心掛けている。	プライバシー保護については毎年、法人内研修で取り上げている。特に、言葉遣いに特化したマニュアルを作り、職員間での意識付けに取り組んでいる。一人ひとりそれぞれの生活スタイルで暮らして来た利用者を、入所後もその暮らしを続けられるよう支援することが職員の務めと理解している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意向等を言いやすい環境作りに努めている。表情や会話からも意向や要望を察し本人の希望に添うように対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを大まかに組んでいるが一人ひとりのペースを大切にし、一人ひとりの生活リズムに合わせて対応し入居者の意思を尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類についてはご家族に準備して頂いている。身だしなみでコミュニケーションや人間関係に繋がるので自身で好みの衣服を選んでもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせた食器を用意し食べやすいように食材をカットし雰囲気配慮した盛り付けをして食事を提供している、食後は入居者と職員でテーブル、お盆拭きを行っている。	食事は法人内の特別養護老人ホームで調理されたものが届けられる。ご飯と汁物は事業所で調理している。事業所で形態や味付け等を利用者に合わせて工夫している。主任が法人の給食委員会に参加して、利用者の希望するメニューが採り入れられるよう伝えている。地域住民からいただいた季節の収穫物を食卓に提供することもある。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立にて1日1400kcal 前後の食事を提供し、3食しっかりバランス良く食べられている。食事、水分摂取量は個別に毎日記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。支援が必要な方は援助し義歯洗浄等を行い汚れの除去と口腔機能の改善を行い清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックを行い、個々の排泄リズムに応じてトイレの声掛けや援助を行い自立にむけた支援を行っている。	利用者の身体状況に応じて、トイレで排泄する生活を続けられるよう個別に支援している。夜間はトイレの場所が分かるよう照明は点けたままにしている。夜間の移動に不安を感じている利用者には、ポータブルトイレを貸し出す等して支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にてチェックを行い、排便困難時には緩下剤の服用にて対応している。リハビリ体操や食事前の飲茶を促したり個々に応じた便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	その日の体調やタイミングでお風呂に入ります。基本的に週2回の入浴を行い、希望があれば湯量や温度を調整し援助を行っている。	特に入浴日は定めておらず、利用者の体調や受診、訪問理容等状況に合わせて、週に2～3回の入浴を目安に案内している。入浴回数や時間帯は、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。浴室は外から見える環境ではないため、天候が良ければ窓を開けて、開放的な雰囲気に入浴している。入浴剤は複数用意し、利用者は好みのものを選択できる。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせ生活リズムを整えるよう努めている。不眠の場合にもお昼寝や本人のリズムに合わせて休息を促している。居室にはエアコンや床暖房で安心して気持ちよく眠れる環境を整えて支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に1回の往診にて介護士による服薬管理を行っている。服薬の際には、服薬チェック表にそって配薬をし服薬の際には日付けと名前を声出し確認し飲み忘れや誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の性格や好みを把握し、貼り絵やカラオケぬり絵やパズル等個々が楽しく過ごすことができるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ2~3年コロナ感染予防の為バスハイク等の実施を見合わせていたが5類になり少しずつ園外へ出る準備をはじめている。天気の良い日には出来るだけ外に出る機会を作り気分転換を図ることができるように支援している。	散歩には週に2~3回出かけている。事業所として外出することは未だ控えているが、家族との外出は制限しておらず、年末には4~5名の利用者が外泊している。家族が受診時に馴染みの場所を回ったり、気分転換してくれている。今後は感染状況を見ながら、事業所としての外出を再開する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、できる限り所有して頂く事が望ましいと考えているが認知症状の進行に伴い、金銭管理は難しく所持して頂いていない。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の電話代行支援を行っている。家族や親戚等の交流ができるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには可能な限り園庭に咲いている草花をつんで飾り季節感を得ることができるようになっている。不快な音や光等が入らないようにまた、快適な温度で過ごせるように努めている。	リビングは東向きで朝日が登るにつれて、明るくなり暖かさが建物内に広がっていく。外気浴や屋外での体操、敷地内を巡り歩きながら四季の花を摘んでリビングのテーブルに生けたりしている。利用者の視覚や聴覚、嗅覚を通して、四季を日々の暮らしに取り入れた生活空間作りを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローには、ソファやテーブル、椅子を置き入居者同士が交流をもてるようにしている。また、フローに大きなテレビを置き入居者様みんなが見れるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好きな物や馴染みのもの等を家族に聞きながら設置し、安全性を考えながら本人にとって心地よく過ごせるよう配慮している。	居室は廊下を挟んで向き合って並んで設けられている。どの居室の窓からも自然豊かな周辺の風景を楽しめる設えとなっている。ベッドの位置は、動線や身体状態のみではなく、どの位置からが風景を楽しめるかによって、利用者が向きや置き場所を決めている。利用者の馴染みの家具等を持参してもらい、居心地良く過ごせるようにしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下等には、手摺を設置し安全に過ごせるようにしている。また、個々の身体状況に応じて福祉用具を導入し、安全に配慮しながら動かせる機能を最大限に活かし、現在ある残存機能が維持できるよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない